

全国代表者会議（第32回） 中央委員会）を開催

2月8日、愛知県尾張一宮において、全国代表者会議（第32回中央委員会）を開催しました。小笠原副委員長による開会挨拶では始まり、その中で西日本豪雨をはじめとした多くの自然災害により被災された方々に対し、黙祷を捧げご冥福をお祈りしました。

尚、代表者会議開始前、第25回参議院議員選挙に出馬を予定されている、「私鉄総連 森屋たかし氏」が挨拶に訪れ、選挙必勝に向けて、力強くご挨拶されました。私達貨物鉄産労は、「森屋たかし氏」必勝に向け、運動を展開していくこととします。

会を代表としての大杉委員長挨拶では、現在の会社状況・安全問題・組織課題・政策課題・2019春闘・人事制度見直し・選挙への取り組み等を述べられ、来賓挨拶では、JR連合北村部長より、2019春闘・民主化への取り組み・グループ労組課題・選挙への取り組み等を主に話され、中村部長からは、安全問題・政策課題等を主に話されました。

続いて、佐々木中執より祝電メッセージが披露されたあと、辻村書記長から、第34回定期全国大会以降の活動経過を報告し、今後の活動方針（2019春闘、選挙への取り組み等）が提起されました。質疑応答では、各地区代表者より発言があり、執行部が集約答弁し、今後の活動方針が決定しました。

続いて、新井中執より委員会宣言（案）が読み上げられ、満場一致で採択され、吉永中執による開会挨拶後、大杉委員長による「団結頑張り」で会は終了しました。その後、場所を移動し懇親会を開催しました。



森屋たかし氏と握手する大杉委員長



開会挨拶小笠原副委員長

発言者（主な内容を抜粋）

九州地区本部田代委員

・2019春闘諸要求について、保存休暇使用制限撤廃を盛り込まれたい。

・諸事情等で遠方からの通勤で、交通費の一部を負担している者がいる。緩和措置として支給上限を見直されたい。

・人事制度見直しについては、公正公平な評価を必ず行うよう強く要請する。

・組織については、九州地区本部全体で鋭意に取り組んでいく。



JR連合中村部長



JR連合北村部長

東海地区本部和田委員

・青年部運動をもっと盛り上げていきたい。組織については、各地協や県協のお力をもらいながら取り組んでいく。

・人事制度見直しについて。現在、どこまで進んでいるのか。全くスケジュールが見えてこない。本日に4月1日に導入出来るのか。そもそも交渉時間が短すぎる。今後を左右する賃金関係を簡単に決めすぎではないか。評価制度についても、信用できない部分がある。



東海地区本部和田委員



九州地区本部田代委員

政策課題については、JR連合と共に取り組み、課題を克服していきたい。

隣家の火事が我が家に！ さて、保障はどうか？

交運共済の火災共済なら、自家出火はもちろん隣家の火災による被害も保障。地震や台風などの自然災害保障も充実。



大切な家が災害にあつたら

火災共済/地震風水害共済

みんなで暮らしをガード
交運共済
全国交通運輸産業労働者生活互助会

東北地区本部足利委員

・60歳以上の働き方について。年間休日が24日増えるが、プラスして働き方を見直すべきではないか。人事制度導入の際に、本社がある程度、働き方を決めるべきと考える。



東北地区本部足利委員

北海道地区本部菊地委員

・北海道支社管内では、事象が多く発生している。組合員に対し、改めて安全最優先を喚起していく。
・60歳以上の働き方について。本社が明確に働き方の基準を示すべきと考える。
・春闘について。年間休日増を強く要求する。



北海道地区本部菊地委員

東海地区本部小山委員

・評価について。休職・休暇期間は、どのように評価するのか。
・春闘要求について。技能手当の拡大を図りたい。法令で定められたもの及び更新があるもので。ガス溶接作業主任者、有機溶剤作業主任者、超音波探傷技術者、磁粉探傷技術者、アーク溶接技術者（JIS）、半自動溶接技術者（JIS）
・保存休暇使用制限撤廃が望ましいが、厳しいことも予想され、家族の介護や看護、病院への送迎、不可抗力の災害を受けた場合等、細かく絞って要求するのがベストではないか。



閉会挨拶吉永中執



団結ガンバロー

「頂戴した祝電メッセージ」

- ・JR北海道労働組合様
 - ・ジェイアール・イーストユニオン様
 - ・東海旅客鉄道労働組合様
 - ・西日本旅客鉄道労働組合様
 - ・四国旅客鉄道労働組合様
 - ・九州旅客鉄道労働組合様
- ありがとうございました。

連合「2019春季生活闘争・闘争開始宣言2・4中央総決起集会」開催される！

連合は2月4日（月）、東京有楽町・よみうりホールにおいて2019春季生活闘争の開始を宣言する総決起集会を開催し、連合構成組織を中心に1070人（男性840人、女性230人）が2019春季生活闘争に臨む決意を固めました。この集会にはJR連合組合員と共に、関東地区本部組合員も参加しました。

冒頭、神津中央闘争委員長（連合会長）は「2019春季生活闘争は、これまで成果を上げてきた賃上げをはじめとする処遇改善に向けた熱気を、いかに社会全体へ拡げていくのかが問われる闘争である」「賃上げは、とりわけ縮まらない格差という現実を直視し、『上げ幅』だけでなく『水準』にこだわった取り組みを重視していく。働き方の見直しは、その必要性を労使がそれぞれの持ち場・職場で発信を。」

そして、働き方も含めた『取引の適正化』は、その必要性について経営者団体や行政と連携しながら社会全体に訴えていく。「賃上げに向けた温度上昇を妨げているものがある。目を凝らして世の中に呼びかけていく春季生活闘争にしていこう」と主催者を代表して決意を表明しました。



次に、労働条件委員会／野中委員長（電機連合委員長、雇用や労働法制を扱う雇用法制委員会／岸本委員長（電力総連会長）、中小企業の労働条件を扱う中小労働委員会／難波委員長（運輸労連委員長）の各委員会よ

火災共済とセットで、地震、暴風雨などの被害を保障。

台風に限らず、突風、高波、津波、洪水、豪雨、雪崩れ、降雪などの被害を保障。地震風水害共済なら、さらに強盗や窃盗による被害に対しても共済金をお支払いします。



みんなで暮らしをガード
交運共済
全国交通運輸産業労働者共済生活協同組合

大切な家が災害にあったら
火災共済/地震風水害共済

り決意表明が行われ、袈裟丸中央闘争委員（基幹労連中央執行委員）から闘争開始宣言（案）を提起し、満場の拍手で確認されました。最後に相原中央闘争事務局長の「がんばろう三唱」で集会を締めくくりました。

「賃金の引き上げ」と「すべての労働者の立場に立った働き方」の実現を同時に推し進める2019春季生活闘争がいよいよスタートしました。

JR連合 第31回 中央委員会開催

JR連合は、2月5日、静岡市内で第31回中央委員会を開催し、2019春季生活闘争をはじめとした諸課題に対する当面の活動方針を決定しました。貨物鉄産労から大杉委員長・小笠原副委員長、貨物連合から南関東ロジ山田委員長が出席しました。松岡会長挨拶では、「本年は大きな節目を迎える」として、ILO創設100周年、連合結成30周年、

12年に一度の統一地方選挙と参議院議員選挙の同年実施、ラグビーW杯の日本開催、さらには「平成」から新元号による新たな時代へと移り変わることに触れ、「様々な課題に迅速かつ柔軟にな取り組まなければならぬ」とし、「安全確立・2019春季生活闘争、民主化闘争完遂、産業政策課題解決、各選挙での必勝といったJR連合が直面する諸課題について所信を表明し、積極的な議論を要請しました。さらに、来賓として、第25回参議院議員選挙に出馬する予定である、JR連合国会議員懇談会会長の榛葉賀津也参議院議員と同幹事の長浜博行参議院議員が出席し、JR連合への連帯・激励のあいさつを行いました。

議事では、執行部から当面の活動方針案および「規約・諸規則の一部改正」等を提起し、執行部からの中間答弁、河村事務局長の総括答弁を経て、満場一致で承認されました。最後に、JR7単組およびグループ93単組が一丸となった総がかりの「統一闘争」を展開する意思を確認し合い、松岡会長の団結ガンバローで閉会しました。

小笠原副委員長の発言内容

JR連合・各単組の皆様には、日頃より大変お世話になっており、また、先日の物販販売では、多大なるご支援ご尽力を頂きありがとうございます。この場をお借り致しました。この場をお借り致します。御礼申し上げます。私からは、JR連合の2019春闘方針に賛成の立場で「春闘」「政策」「選挙」の3点について発言したいと思います。

1点目の2019春闘については、昨年19年ぶりにベア（一律定額分配）300円を勝ち取り、一定の成果を上げました。今年度に入り、相次いで発生した自然災害の影響で、上期は100億円以上の減収を余儀なくされました。しかしながら、中間決算において平成31年3月期業績見通しでは、単体経常利益4億円を見込んでいたが、組合員の頑張りもあり9億円に届くのではな

いかと言われています。ベア100円の原資は社会保障を含めて約2000万円、体力的にもベア実施は可能であり、何としても2年連続のベアを獲得しなければなりません。JR貨物の労働条件はJR各社の中でも下位に位置し、他のJR各社よりも人材確保が難しくなることは明白です。賃金改善が必要であることは会社も認識しているはずですが、新年度から新人事賃金制度が始まる予定ですが、新しい評価制度も導入されます。

新人事賃金制度導入前にベアを勝ち取り、組合員とその家族の生活を守るため、将来に希望の持てる労働条件確立を目指していきます。

JR貨物グループである各ロジ会社も、厳しい労働条件下で働いていますが、現場では慢性的な要員不足が続く、募集を常にかけていますが、採用しても「労働に対して賃金が見合っていない」と、すぐに辞めていってしまうのが現状であります。現場では超勤対応等で要員不足をカバーしていますが、いつ潰れてもおかしくない状況であり、安全が担保されているのか不安視されています。また、トラックドライバ不足で鉄道輸送が注目されていますが、荷物が増えれば、それを貨車に載せるフォークリフトマンも増やさなければ現場は大混乱に陥ります。現時点、何とかやりくりし定時運行を保っていますが、これ以上、業務に負荷がかかるようになれば、いざれ定時運行が出来なくなり、そうなる前に、JR貨物連合として、貨物本社に委託金の増額を求め、ロジ労組の労働条件改善を早急に行う必要があります。詳しくは2月8日に開催する全国代表者会議において闘争方針を決めていくこととします。

2点目は、「政策」についてです。今年度、税制特例期限切れはありませんが、年々猛威を増す自然災害について要望があります。私達は旅客会社の線路を借りて運行しております。国は、鉄道軌道整備法改正や鉄道強靱化予算を盛り込み、鉄道のことを十分理解してくれていると考えますが、道路、港湾、空港に比べれば、まだまだ薄いと考えます。そこで、今年1月から導入された出国税の一部を、JR旅客会社の鉄道強靱化予算となる仕組みとして政策誘導してもらえないでしょうか。

併せて、来年度末で期限切れを向える、買換特例、新車特例延長、また、2020年、2022年に東京貨物ターミナル駅構内に大型物流施設が完成予定であり、モーターシフトに絡めて物効法（物流総合効率化法）適用条件緩和への政策誘導もお願い致します。

3点目は、「統一地方選・参議院選挙」についてです。4月の統一地方選挙、7月の参議院選挙と今年度は選挙イヤーであります。政策・組織課題を解決するためには政治の力は不可欠であり、JR連合県協、地協と連携を図り、西労組の京都府議選、広島県議選、必勝に向け取り組みとともに、貨物鉄産労が担当となっている参議院全国比例区「私鉄総連・もりやたかし氏」必勝に向けた取り組みを全国展開していくこととします。

最後に、貨物鉄産労は退職者等を含め組織人員が減っていますが、各地区本部は、日々、組織運動に邁進しています。昨年7月に開催された全国大会以降、9月に九州地区において1名、10月に九州・東海地区において各1名、計3名の組織拡大が出来ました。今後も積極的に活動を行い、民主化闘争完遂に向け一杯取り組んでいきます。



小笠原副委員長発言

ドライバーの安心を グンと高めるパワフル補償。

毎日の暮らしに欠かせないクルマ。
日常的になったぶん、事故との遭遇率も高くなります。
対人賠償、対物賠償などの相手方への賠償だけでなく、
人身傷害補償、車両損害補償など
ご自身の補償も充実しています。



セット加入でパワフル補償

マイカー共済(自動車総合補償)/自賠責共済

みんなで暮らしをガード
交運共済
全国交通運輸業労働者共済生活協同組合